

「世界津波の日」2018

高校生サミット in 和歌山 参加報告

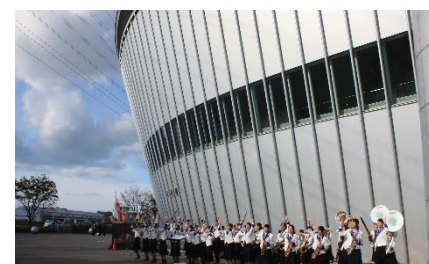
10 月 31 日, 11 月 1 日の 2 日間, 「『世界津波の日』2018 高校生サミット in 和歌山」に 2 年生 3 名が代表で行って来ました。本校は, 一昨年, 昨年に続き 3 回目の参加となりました。

[10/31 サミット開会式]

会場は和歌山ビックホエール。名前の通り大変広かったです。そこには 135 人の国内参加者と 48 か国から 250 人の海外参加者がいました。それに加えて運営スタッフや引率者, さらには政府関係者なども多数いたので, 人の多さに驚きました。

使用言語は英語。開会式もちろん英語で進められていきます。これから高校生サミットが始まるんだという興奮と共に, 自分の英語力は果たして通用するのだろうかという若干の不安を感じていました。

その後, 同じグループになったカナダ, フィジー, モンゴル, ニウエ, 日本の二校の高校生と自己紹介, 自校紹介, 自国紹介等を通じて, お互い親睦を深めていきました。



[10/31 分科会プレゼン]

私たちは, 「Updating Us ~Are you sure that you're safe?~」という題で, 東日本大震災の被害状況を細かく分析し, それから得た問題点の改善策, もう二度と同じ過ちを犯さないために高校生自身が地域や地域住民にできることについてプレゼンしました。多少のミスはありましたが, 皆さんにはしっかり伝わっていたようで安心しました。特に興味深かったのは, 兵庫県の舞子高校の発表で用いられた「Everyone is vulnerable. (全ての人は脆弱だ)」という表現です。一人一人は弱い存在だけれども, みんなで協力し合えば強くなれるということを手早く表現していると思いました。

また, 班ごとの親睦を深めるために行ったその場で渡された飴についてプレゼンをするという時間では, 思ったことを英語にしてそれを発言する前に次の話題になってしまうということが多く, 話し合いについていけなくなることがありました。思ったことを即座に英語に変換してそれを発言する能力が足りないと痛感しました。

[10/31夜 レセプションパーティー 11/1 全体会]

レセプションパーティーは立食形式で行われました。和歌山県知事、自民党の重鎮など政界関係者が多数いらっしゃったので、堅い雰囲気なのかなと当初は思っていたのですが、大変和やかな雰囲気の中でお互いさらに親睦を深めることができました。それまでは同じグループ内でしか交流がなかったのですが、私はこの時がチャンスだと思い積極的に違うグループの人たちと交流を図りました。

かれこれ 50 人以上の外国人高校生と話しましたが、最も盛り上がる話題が日本のアニメについてでした。特に、進撃の巨人は知っている人が多いことが分かりました。みなさんも外国人高校生と話す機会があったら日本のアニメを話題にするといいかもしれません。また、外国人高校生が使用している SNS は圧倒的にインスタグラムです。その後も交流を図りたいなら「インスタやってる？」と聞けば連絡先を交換できること間違いなしでしょう。料理もおいしく、有意義な交流もできて最高でした。

全体会では安倍総理からのビデオメッセージがあり大変驚きました。ただ、来賓挨拶が非常に長くしかもほぼ同じ内容で更にはほとんどの人が日本語を用いていたので私にも外国人高校生にも退屈な時間でした。こういった場面では政治的なことは最小限に抑えるべきだと思いました。



ACTION PLAN

私たちが分科会で発表した津波行動の際の行動 ACTION PLAN の抜粋を紹介したいと思います。英文ですが、ぜひ読んでみてください。

Since they have had many tsunamis before, people in the ria coastal areas had been more prepared for the attack of the tsunami than those in the alluvial plain areas. People in the alluvial plain areas hadn't had enough experience, and normalcy bias made the situation even worse. We need to tell every children about this problem. Every children has to know the mechanism of tsunami and the psychological deficit human begins have. For example, we can design a disaster prevention class where students in elementary and junior high school can learn what the tsunami was actually like and what people actually did. High school students can make a movie or booklets that can be used in the class. The booklets can be distributed to adults. When we don't know the real risk, normalcy bias affects us. To know the risk correctly will enable us to save our lives.

編集後記

こんな素晴らしい経験をできる高校生は日本全国にそういません。今年の日本人高校生の参加者は、わずか 135 人でした。その 135 人の中に加わり、有意義な経験をすることができたのは大変光栄です。たぶん一高にいるからこそ経験できたことなんだろうと思います。このサミットで得た経験をこれからの学校生活や将来に活かしていきたいと思います。また、このような機会を与えてくださった方々に感謝したいと思います。

最後になりますが、この号の発行が著しく遅れてしまい申し訳ありませんでした。